

## 2026年3月期 第2四半期(中間期)決算短信〔日本基準〕(連結)

2025年11月5日

上場会社名 株式会社サンリオ 上場取引所

コード番号 8136

(氏名) 辻 朋邦 代表取締役社長

URL http://www.sanrio.co.jp/corporate/ir/

者 代 表 (役職名) 問合せ先責任者 (役職名)

常務執行役員

(氏名) 松本 成一郎

(機関投資家及びアナリスト向け)

(TEL) 03-3779-8058

半期報告書提出予定日

2025年11月14日

決算説明会開催の有無

:有

配当支払開始予定日

2025年12月4日

決算補足説明資料作成の有無

: 有

(百万円未満切捨て)

## 1. 2026年3月期第2四半期(中間期)の連結業績(2025年4月1日~2025年9月30日)

#### (1)連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年中間期増減率)

The second content of								1. D ">A I /
	売上高 営業利益		経常利	益	親会社株主に 中間純利			
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年3月期中間期	87, 676	39. 6	39, 183	66. 1	39, 715	64. 1	27, 518	44. 3
2025年3月期中間期	62, 807	43. 0	23, 591	77. 3	24, 196	70. 4	19, 076	81. 6

包括利益 2026年3月期中間期 24,298百万円( 5.5%) (注) 2025年3月期中間期 23,027百万円( 75.8%)

	連結子会社σ	
	相違による連結調整	
	営業利:	益
	百万円	%
2026年3月期中間期	37, 129	49. 9
2025年3月期中間期	24, 773	86. 2

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円銭	円銭
2026年3月期中間期	115. 21	114. 21
2025年3月期中間期	80. 77	78. 49

<sup>(</sup>注)連結子会社の決算期相違による連結調整前営業利益は、子会社の正規の決算を基礎として、決算日の相違による連 結会社間取引に係る重要な不一致について、必要な整理を行う前の数値です。

: 有

#### (2) 連結財政状能

(2) 连帕别以代志									
	総資産	純資産	自己資本比率						
	百万円	百万円	%						
2026年3月期中間期	214, 108	144, 530	67. 2						
2025年3月期	202, 406	107, 608	52. 9						

(参考) 自己資本 2026年3月期中間期 143,879百万円 2025年3月期 107,031百万円

#### 2. 配当の状況

		年間配当金							
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計				
	円 銭	円 銭	円銭	円銭	円銭				
2025年3月期	_	20. 00	_	33. 00	53. 00				
2026年3月期	_	31.00							
2026年3月期(予想)			_	31.00	62. 00				

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無

### 3. 2026年3月期の連結業績予想(2025年4月1日~2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

						( / 0 12 / 1 / 1 / 0	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		
	売上	高	営業	利益	経常	利益	親会社株 する当期	主に帰属 月純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	184, 300	27. 2	70, 200	35. 5	71. 300	33. 4	49, 400	18. 4	204, 26

	連結子 決算期 よる連結 営業	相違に 調整前
	百万円	%
通期	69, 600	25. 1

- (注)1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無
  - 2. 連結子会社の決算期相違による連結調整前営業利益は、子会社の正規の決算を基礎として、決算日の相違による連結会社間取引に係る重要な不一致について、必要な整理を行う前の数値です。
- ※ 注記事項

(1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無

新規 —社(社名) 、除外 —社(社名)

(2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4)発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数(中間期)

2026年3月期中間期	255, 408, 303株	2025年3月期	255, 408, 303株
2026年3月期中間期	10, 102, 391株	2025年3月期	18, 121, 226株
2026年3月期中間期	238, 867, 132株	2025年3月期中間期	236, 172, 460株

- ※ 第2四半期(中間期)決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です
- ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料 P.5「1. 当中間決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

# ○添付資料の目次

当中間決算に関する定性的情報
(1) 経営成績に関する説明
(2) 財政状態に関する説明
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明
(4) 利益処分に関する基本方針及び当期の配当
中間連結財務諸表及び主な注記
(1) 中間連結貸借対照表6
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書8
中間連結損益計算書
中間連結包括利益計算書9
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項
(継続企業の前提に関する注記)
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)
(セグメント情報等)

#### 1. 当中間決算に関する定性的情報

#### (1)経営成績に関する説明

当中間連結会計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善の動きが続く中で、個人消費に持ち直しの動きがみられるなど緩やかに回復しております。一方で、米国の通商政策の影響による景気の下振れリスクや物価上昇の継続が我が国の景気を下押しするリスクなど、先行き不透明な状況が継続しております。

このような状況のなか、当社グループは3ヵ年の中期経営計画「不確実な成長から、安定・永続成長へ」(2025年3月期~2027年3月期)に基づき、主要施策の「マーケティング・営業戦略の見直しによるグローバルでEvergreenなIP化」「グローバル成長基盤の構築」「IPポートフォリオ拡充とマネタイズの多層化」を推し進めております。また、2025年5月には10年間の長期ビジョン「みんなを笑顔に導く灯台に」を公表いたしました。2025年6月に株式会社1Gポートと資本業務提携を締結、同年7月には株式会社Gugenkaを子会社化し、映像配信やデジタル面での機能強化を開始するなど、当社キャラクター人気の持続的な成長に向けて様々な施策を講じております。

国内の店舗・テーマパークは、グローバルでのサンリオキャラクター人気の高まりや様々な施策が奏功し、国内客および外国人観光客が増加し売上高を押し上げました。国内外のライセンス事業は複数キャラクター戦略の好調継続により北米・中国を中心にすべての地域で伸長いたしました。なお、サンリオグループ共通の会員サービス「Sanrio+」の会員数は2025年9月末現在で約292万人となりました。

以上の結果、売上高は876億円(前年同期比39.6%増)、営業利益は391億円(前年同期比66.1%増)、経常利益は397億円(前年同期比64.1%増)、親会社株主に帰属する中間純利益は275億円(前年同期比44.3%増)となりました。

なお、すべての海外連結子会社の決算期は1月~12月であり、当第中間連結会計期間の対象期間は、2025年1月~6月であります。

〔報告セグメント〕 (単位:億円)

(和)口 ピン	/ /   /							( 11/	1尽口/
			売上高			セグ	メント利益	(営業利益	)
		前中間連結会計期間	当中間連結 会計期間	増減	増減率	前中間連結 会計期間	当中間連結 会計期間	増減	増減率
日本	物販その他	298	383	85	28.5%				
	ロイヤリティ	89	139	50	56.4%	165	254	88	53.3%
	計	387	522	135	34.9%				
欧州	物販その他	0	0	0	11.1%				
	ロイヤリティ	19	44	25	135.7%	4	12	7	173.1%
	計	19	45	25	131.6%				
北米	物販その他	9	11	1	15.1%				
	ロイヤリティ	88	98	10	11.7%	21	34	13	62.1%
	計	98	109	11	12.0%				
南米	物販その他	0	0	0	31.5%				
	ロイヤリティ	6	12	5	80.6%	2	4	2	92.7%
	計	6	12	5	79.6%				
アジア	物販その他	24	46	22	91.3%				
	ロイヤリティ	91	139	47	52.5%	52	102	50	96.2%
	計	115	186	70	60.6%				
調整額		_	_	_	_	△10	△15	△5	_
連結	物販その他	333	442	108	32.6%				
	ロイヤリティ	294	434	139	47.5%	235	391	155	66.1%
	計	628	876	248	39.6%				

(注)海外地域の子会社は、ロイヤリティ収入に対して相応の額を売上原価として著作権所有者である 日本の親会社に支払っており、それを親会社は売上高として計上しておりますが、連結消去されるため、上表の日本の売上高にはその相当額は含まれておりません。セグメント利益(営業利益)には反映されております。

なお、ここに示す売上高は、外部顧客に対する売上高であり、前述のロイヤリティに限らず報告セグメント間売上高は内部取引高として消去しております。

### ① 日本:売上高522億円(前年同期比34.9%増)、営業利益254億円(前年同期比53.3%増)

## 1. 物販事業・ライセンス事業

物販事業は、『クロミ』『マイメロディ』などの周年キャラクターやキャラクター大賞1位の『ポムポムプリン』など複数のキャラクターが幅広い世代からの支持を受け、店舗やECサイト、卸売など、様々なチャネルが前年同期実績を大きく上回りました。特に店舗では、外国人観光客に加え国内客が大幅に増加し、客単価および客数が引き続き伸長いたしました。ここ数年取り組んできた定番商品の自動発注化による供給体制の整備やレジ台数の増加などの店舗オペレーションの改善策も奏功いたしました。

ライセンス事業は、複数キャラクター戦略が奏功するとともに、インバウンド需要や2025年日本国際博覧会(略称「大阪・関西万博」)が業績拡大に寄与いたしました。周年を迎えた『マイメロディ』や『クロミ』、『はぴだんぶい』が人気を博し、全国巡回中の「Hello Kitty展-わたしが変わるとキティも変わる-」(沖縄県立博物館・美術館:3/7-5/11、福岡市美術館:6/24-8/31)が話題を集めました。

営業損益は、売上高の増加に伴い伸長いたしました。

#### 2. テーマパーク

サンリオピューロランド(東京都多摩市)は、同施設としては初となるワークショップ型新アトラクション「CHALLENGE PURO」(3/20オープン)や周年キャラクターの様々な施策、七タイベントの「Mignon fuwafuwa matsuri」(6/6-7/8)などのシーズンイベントが集客に寄与いたしました。また、これらのイベントに関連した限定商品や食事メニューが人気を博し、来園客数が増加するとともに客単価も増加し、売上高が伸長いたしました。

ハーモニーランド(大分県)は、「HARMONYLAND Flower Fantasy」(3/20-7/1)などのシーズンイベントや周年キャラクターの様々な施策が奏功し、来園客数が伸長いたしました。また、『クロミ』や『マイメロディ』の周年関連商品が注目を集めました。猛暑のため夏季プールを中止にした一方で「キャラクターグリーティングファンスタジオ」(7/4オープン)が集客に寄与し、前年同期実績を上回りました。

営業損益は、人員体制の強化や修繕などにより販売費及び一般管理費が増加したものの、大幅増収により営業利益は過去最高を更新いたしました。

② 欧州:売上高45億円(前年同期比131.6%増)、営業利益12億円(前年同期比173.1%増) ライセンス事業は、複数キャラクター戦略の継続やグローバルブランドとの取り組みが奏功し、売上高が大幅に増加いたしました。特に大手ファストファッションブランドとの取り組みが奏功したアパレ

営業損益は、売上高の増加により伸長いたしました。

③ 北米:売上高109億円(前年同期比12.0%增)、営業利益34億円(前年同期比62.1%增)

ルカテゴリー、複数のキャラクターが採用された玩具カテゴリーが牽引いたしました。

ライセンス事業は、玩具、アパレル、デジタルカテゴリーの売上高が大幅に伸長いたしました。玩具カテゴリーは、大手玩具メーカーのぬいぐるみやフィギュアなどが好調に推移いたしました。アパレルカテゴリーは、既存ライセンシーとの取り組みにより引き続きマス市場(量販店など)向け商品展開を行いました。デジタルカテゴリーは、複数のキャラクターが登場するゲームコンテンツをさらに多くのプラットフォームで配信を開始し、売上高の拡大と認知度向上に貢献いたしました。

また、ブランド価値向上と顧客接点拡大に向けて、スポーツイベントなどにも複数参加いたしました。プロスポーツリーグのMLB(野球)やNHL(アイスホッケー)、NBA(バスケットボール)とのイベントを実施いたしました。

営業損益は、マーケティング費用が増加したものの、売上高の増加に伴い営業利益も増加いたしました。

④ 南米:売上高12億円(前年同期比79.6%増)、営業利益4億円(前年同期比92.7%増)

南米全体では、ライセンス事業において、アパレル、ヘルス&ビューティー、文具、アクセサリー、バッグカテゴリーが好調に推移いたしました。また、50周年の『マイメロディ』や20周年の『クロミ』など『ハローキティ』以外のキャラクターの人気が高まりました。

メキシコは、子供や10代向けのデスク用品などが好調の文具カテゴリーや、Tシャツなどのアパレルカテゴリーが好調に推移いたしました。ブラジルは、大手製薬会社とコラボレーションしたリップクリームがヒットしたヘルス&ビューティーカテゴリー、人気が高まっている『クロミ』が好調のアパレルカテゴリーなどが売上高増に貢献いたしました。ペルーは耐久性の高いスーツケースが人気のバッグカテゴリーやアパレルカテゴリーが売上高を牽引いたしました。

営業損益は、売上高の増加に伴い伸長いたしました。

⑤ アジア:売上高186億円(前年同期比60.6%増)、営業利益102億円(前年同期比96.2%増)

中国は、ライセンス事業において、トイ&ホビーやアパレル・アクセサリー、家庭用品カテゴリーが好調に推移いたしました。『ハローキティ』人気が継続するとともに、複数キャラクター戦略により『クロミ』や『シナモロール』の人気が継続し、『ハンギョドン』や『まるもふびより』にも注目度が集まりました。物販事業においては、新店舗オープンやポップアップストアによる顧客とのタッチポイント増加が奏功し、売上高が大幅に増加いたしました。

韓国は、ライセンス事業において、アパレル商材の需要鈍化などにより、アパレル・アクセサリーカテゴリーが苦戦いたしました。一方で複数キャラクター戦略により、ヘルス&ビューティーカテゴリー

が好調に推移いたしました。

台湾は、ライセンス事業において、玩具、アパレル、食品カテゴリーが好調に推移いたしました。複数キャラクター戦略が奏功し、特に『マイメロディ』『クロミ』の人気がさらに高まりました。

香港・マカオ地区は、ライセンス事業において、金融機関や地方自治体と取り組みを行った企業特販カテゴリーが、売上高の増加に貢献いたしました。

東南アジアは、ライセンス事業において、玩具ライセンシーとの複数地域展開が売上高を牽引いたしました。また、企業特販カテゴリーも好調に推移し、売上高の増加に寄与いたしました。そして、『ハローキティ』の好調を維持するとともに、複数のキャラクターの人気も高まり、玩具や食品カテゴリーにおいても売上高が伸長いたしました。

営業損益は、アジア全体においての売上高の増加に伴い伸長いたしました。

### (2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の総資産は2,141億円で前連結会計年度末比117億円増加しました。資産の部の主な増加項目は、現金及び預金50億円、商品及び製品30億円、未収入金6億円、流動資産のその他12億円、無形固定資産11億円、投資有価証券17億円、主な減少項目は、売掛金12億円です。

負債の部は695億円で前連結会計年度末比252億円減少しました。主な増加項目は、支払手形及び買掛金23億円、契約負債14億円、主な減少項目は、未払法人税等8億円、流動負債のその他57億円、長短借入金、社債(1年内償還予定社債を含む)及び転換社債型新株予約権付社債230億円です。

純資産の部につきましては、1,445億円と前連結会計年度末比で369億円増加しました。主な増加項目は、利益剰余金196億円、転換社債型新株予約権付社債の権利行使に伴い増加した資本剰余金126億円、自己株式78億円、主な減少項目は、為替換算調整勘定25億円です。

自己資本比率は67.2%で前連結会計年度末比14.3ポイント増加しました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当中間連結会計期間におきまして、グローバルで推し進めている複数キャラクター戦略や様々な施策が奏功し、『ハローキティ』をはじめとする当社キャラクターのさらなる人気の高まりを受けて、業績は計画を上回って推移いたしました。そのため通期におきましては、当中間連結会計期間における好調業績を織り込むとともに、第3四半期連結会計期間以降においても引き続き堅調な売上推移が見込まれると予想しております。一方で、米国関税政策の影響によるキャラクター市場全体の下振れリスクや成長に向けた戦略的な販売費及び一般管理費の増加も織り込み、通期連結業績予想を修正するものであります。

### (4) 利益処分に関する基本方針及び当期の配当

当社は株主に対する利益還元を経営の重要事項と考えております。当中間連結会計期間において275億円の親会社株主に帰属する中間純利益を計上し、計画を上回る水準で着地したことを踏まえ、通期において494億円の親会社株主に帰属する当期純利益を計上する見込みとなりました。そのため、中間配当に関しましては、前回予想の1株当たり30円から1円増配の1株当たり31円にさせていただきます。

期末配当に関しましては、業績予想を上方修正した結果、前回予想の1株当たり30円から1円増配の 1株当たり31円にさせていただきます。

これにより、年間の1株当たり配当金は前回予想の1株当たり60円から2円増配の1株当たり62円となる予定です。

# 2. 中間連結財務諸表及び主な注記

## (1) 中間連結貸借対照表

		(単位:百万円
	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	118, 976	124, 07
受取手形	253	41
売掛金	22, 361	21, 10
商品及び製品	7, 250	10, 28
仕掛品	29	1
原材料及び貯蔵品	460	43
未収入金	351	98
その他	2, 211	3, 47
貸倒引当金	△196	△18
流動資産合計	151, 698	160, 60
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3, 971	4, 10
土地	6, 300	6, 30
その他(純額)	6, 546	6, 7
有形固定資産合計	16, 818	17, 13
無形固定資産	3, 595	4, 73
投資その他の資産		
投資有価証券	7, 558	9, 30
退職給付に係る資産	16, 192	16, 43
繰延税金資産	2, 617	1,71
その他	4, 077	4, 4
貸倒引当金	△152	$\triangle 22$
投資その他の資産合計	30, 293	31, 63
固定資産合計	50, 707	53, 50
繰延資産	0	
資産合計	202, 406	214, 10
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5, 420	7, 72
短期借入金	6, 916	5, 13
未払法人税等	9, 547	8, 70
契約負債	6, 170	7, 58
賞与引当金	1, 267	1, 4
株主優待引当金	106	!
ポイント引当金	15	
その他	19, 833	14, 04
流動負債合計	49, 277	44, 70
固定負債		
転換社債型新株予約権付社債	28, 312	7, 82
長期借入金	5, 023	4, 33
退職給付に係る負債	1, 027	99
その他	11, 157	11, 74
固定負債合計	45, 521	24, 87
		69, 57
負債合計	94, 798	69,

		(単位:百万円)
	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当中間連結会計期間 (2025年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	10, 261	10, 261
資本剰余金	4, 638	17, 319
利益剰余金	93, 238	112, 927
自己株式	△17, 630	△9, 825
株主資本合計	90, 508	130, 682
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	785	577
為替換算調整勘定	8, 154	5, 573
退職給付に係る調整累計額	7, 583	7, 045
その他の包括利益累計額合計	16, 522	13, 196
非支配株主持分	576	651
純資産合計	107, 608	144, 530
負債純資産合計	202, 406	214, 108

# (2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書 中間連結損益計算書

		(単位:百万円)
	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
売上高	62, 807	87, 676
売上原価	14, 441	17, 214
売上総利益	48, 365	70, 461
販売費及び一般管理費	24, 774	31, 278
営業利益	23, 591	39, 183
営業外収益		
受取利息	563	517
有価証券利息	112	112
受取配当金	79	49
投資事業組合運用益	78	21
その他	180	301
営業外収益合計	1,014	1,001
営業外費用		
支払利息	86	88
為替差損	206	162
支払手数料	104	105
支払解決金	-	97
その他	12	14
営業外費用合計	409	469
経常利益	24, 196	39, 715
特別利益		
固定資産売却益		0
特別利益合計		0
特別損失		
固定資産処分損	17	37
減損損失	6	7
特別損失合計	24	44
税金等調整前中間純利益	24, 172	39, 671
法人税、住民税及び事業税	7, 543	10, 070
法人税等調整額	△2, 539	1, 935
法人税等合計	5, 003	12, 006
中間純利益	19, 168	27, 664
非支配株主に帰属する中間純利益	92	145
親会社株主に帰属する中間純利益	19, 076	27, 518

## 中間連結包括利益計算書

		(単位:百万円)
	前中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
中間純利益	19, 168	27, 664
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△15	△208
為替換算調整勘定	4, 186	△2, 620
退職給付に係る調整額	△312	△537
その他の包括利益合計	3, 858	△3, 366
中間包括利益	23, 027	24, 298
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	22, 899	24, 192
非支配株主に係る中間包括利益	127	105

## (3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記) 該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当中間連結会計期間において、転換社債型新株予約権付社債の権利行使に伴う自己株式の処分を行っております。この結果、前連結会計年度比で資本剰余金が126億円増加、自己株式が78億円減少しております。

(セグメント情報等)

- I 前中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
- 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	日本	欧州	報告セクル米	ブメント	アジア	合計	調整額 (注) 1	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 2
売上高								,,,
外部顧客への売上高	38, 757	1, 973	9, 805	689	11, 581	62, 807	_	62, 807
(うちロイヤリティ売上高)	(8, 900)	(1, 908)	(8, 815)	(674)	(9, 145)	(29, 444)	(-)	(29, 444)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	12, 031	68	49	39	2, 080	14, 270	△14, 270	_
(うちロイヤリティ売上高)	(11, 431)	(4)	(-)	(-)	(-)	(11, 435)	(△11, 435)	(-)
計	50, 788	2, 042	9, 855	729	13, 661	77, 077	△14, 270	62, 807
セグメント利益	16, 584	445	2, 136	224	5, 216	24, 607	△1,015	23, 591

- (注) 1. セグメント利益の調整額 △1,015百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、 配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
  - 2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報 重要性が乏しいため、記載を省略しております。
- Ⅱ 当中間連結会計期間(自 2025年4月1日 至 2025年9月30日)
- 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額	中間連結 損益計算書	
	日本	欧州	北米	南米	アジア	合計	(注) 1	計上額 (注) 2
売上高								
外部顧客への売上高	52, 278	4, 571	10, 984	1, 237	18, 603	87, 676	_	87, 676
(うちロイヤリティ売上高)	(13, 916)	(4, 499)	(9, 843)	(1, 218)	(13, 943)	(43, 422)	(-)	(43, 422)
セグメント間の 内部売上高又は振替高	15, 300	90	68	39	3, 686	19, 184	△19, 184	_
(うちロイヤリティ売上高)	(14, 204)	(4)	(-)	(-)	(-)	(14, 208)	(△14 <b>,</b> 208)	(-)
計	67, 579	4, 662	11, 052	1, 276	22, 289	106, 861	△19, 184	87, 676
セグメント利益	25, 431	1, 216	3, 463	432	10, 235	40, 779	△1, 595	39, 183

- (注) 1. セグメント利益の調整額 △1,595百万円は、セグメント間取引消去及び配賦不能営業費用であり、 配賦不能営業費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
  - 2. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
- 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報 重要性が乏しいため、記載を省略しております。